【公表の参考様式（管理機関用）】　　別添２

令和７年７月１８日

令和６年度　特別の教育課程の実施状況等について

滋賀県		
学　校　名	管理機関名	設置者の別
米原市立柏原小学校	米原市教育委員会	公立

１．学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学　校　名	特別の教育課程の編成の方針等の公表 URL
米原市立柏原小学校	https://kashiwabara-e-maibara.edumap.jp/distinctive-activities

※必要に応じて行を追加すること。

２．学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学　校名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
米原市立柏原小学校	https://kashiwabara-e-maibara.edumap.jp/distinctive-activities	https://kashiwabara-e-maibara.edumap.jp/distinctive-activities

※必要に応じて行を追加すること。

３．特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

（１）特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

（２）実施状況に関する特記事項

※（１）で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

（３）保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・実施している
- ・実施していない

＜特記事項＞

学校だより、学年だより等の通信や、学校ホームページに英語科の授業を紹介するなどして、保護者への理解を図っている。

３．　実施の効果及び課題

（１）特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本校の学校教育目標は、「挑戦　協力　思いやり～自分も友だちもふるさとも大切にする柏原小の子～」である。その中にあって、英語科を広い意味でのコミュニケーション能力を育成するための教育の一環として位置付けている。日本語とは異なる英語という言語に触れることにより、言語の面白さや豊かさ等に気づかせたり、言語に対する関心を高めこれを尊重する態度を身につけさせたりすることなどを通じて、対話の手段である言葉を磨くように取組を進めてきた。今後も、小学校から中学校までの９年間を通して、日本語とは異なる英語という言語に触れることにより、思考力、判断力、表現力、対人関係力などを伸ばし、生きる力となる自立心を高めていきたいと考えている。

令和６年度の１学期末の学校評価では、子ども、保護者、教職員がそれぞれ英語科に関する評価を行っている。その結果、９割以上の子どもたちが、英語の授業を楽しんでいることがわかった。また、「英語に興味があり、もっと英語を勉強したいですか。」という項目でも、９割を超える子どもたちが肯定的な回答をしている。保護者アンケートでも、「子どもたちは英語の授業は楽しいと言っている。」という項目で、９割以上の方が肯定的な回答であった。

（２）学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校は山や田園等に囲まれ自然豊かな地域にあり、また、校区には柏原宿があり、かつては宿場町として栄えていた。学校の前には国道２１号線が通っているが、交通の要所としていたころとは様変わりし、人口減少も進んでいる。全校児童数も減少の傾向をたどっている。インターネット上で外国の文化に触れる機会は多くても、体験を通しての異文化交流としてはなかなか成立しがたい。このような状況からしても、やはり英語の授業のもつ意義は大きいものと考える。義務教育の目標でもある「外国の文化の理解を通じて、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」にもつなげていければと考えている。

４．課題の改善のための取組の方向性

「文字の読み書きに抵抗を感じている児童は多く、そのことが英語が好きではないことにつながるおそれがある。」ということで、本校では、特に「書くこと」の指導に力を入れてきた。低学年はアルファベットに慣れ親しむこと、中学年は大文字と小文字の認識と一致、高学年は既習表現を書き写すこと、アルファベットの習得を目標においている。

具体的には、英単語のスペルを ALT の発音を聞き取って、筆記するテストを定期的に行

ったりアルファベット自体の書き取りに力を入れたりしてきた。また、中学年では、ローマ字の練習に力を入れ、英語ワークを使って一つひとつ丁寧に書いたり、朝のさわやかタイムにプリントで繰り返し練習したりしてきた。少しずつではあるが、書くことに対する抵抗が少なくなってきている様子が見て取れる。今後も会話や聞く力、文法などを大切にしながら、アルファベットの「読み書き」をひらがな同様に丁寧に指導し、文字に対する苦手意識を生まないようにしていきたいと考えている。